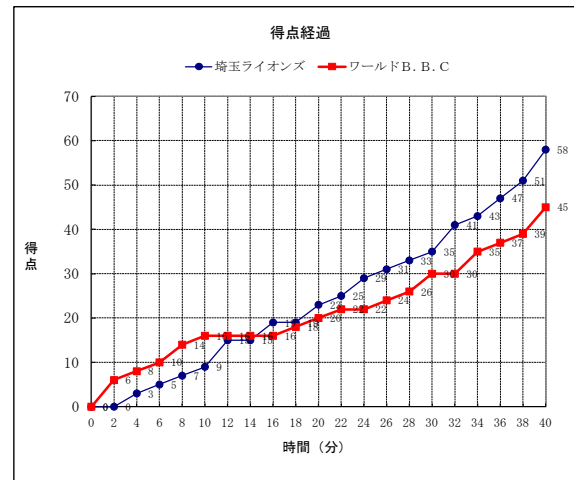


内閣総理大臣杯争奪
第42回日本車椅子バスケットボール選手権大会
個人トータル表

2014年5月17日 17時30分開始																	
東京体育館 C - 5																	
◎ 埼玉ライオンズ 58 (関 東) <table border="0" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 9 1クォーター 14 2クォーター 12 3クォーター 23 4クォーター </td> <td style="padding: 0 10px;">}</td> <td style="padding: 0 10px;">16 4 10 15</td> </tr> </table> 45 ワールドB. B. C (東海北陸)														9 1クォーター 14 2クォーター 12 3クォーター 23 4クォーター	}	16 4 10 15	
9 1クォーター 14 2クォーター 12 3クォーター 23 4クォーター	}	16 4 10 15															
番号	氏名(持ち点)	得点	3P	2P	FT	RB	AT	反則	番号	氏名(持ち点)	得点	3P	2P	FT	RB	AT	反則
4	齋藤 智之 (1)	-	-	-	-	-	-	-	5	加藤 和徳 (3)	1	0	0	1	-	-	0
5	大本 将貴 (4)	-	-	-	-	-	-	-	* 6	神谷 泰範 (2)	6	0	3	0	-	-	3
7	原田 翔平 (1)	-	-	-	-	-	-	-	* 7	竹内 厚志 (3)	6	0	3	0	-	-	1
8	蔵持 弘 (1)	-	-	-	-	-	-	-	9	竹中 久雄 (2)	7	0	2	3	-	-	2
9	赤石 竜我 (2.5)	-	-	-	-	-	-	-	* 10	加藤 直生 (1.5)	2	0	1	0	-	-	2
10	森田 俊光 (2)	2	0	1	0	-	-	1	11	早稲田 正浩 (2)	0	0	0	0	-	-	1
* 11	藤澤 潔 (2)	6	0	3	0	-	-	4	* 12	富永 文明 (3.5)	10	0	5	0	-	-	0
* 13	篠田 匡世 (3.5)	19	0	9	1	-	-	2	14	杉浦 寿信 (1)	-	-	-	-	-	-	-
14	駒崎 和孝 (1)	-	-	-	-	-	-	-	* 15	大島 朋彦 (4)	13	0	6	1	-	-	3
15	青木 大 (1)	0	0	0	0	-	-	-	16	辰巳 晃一 (3.5)	-	-	-	-	-	-	-
* 17	大館 秀雄 (4)	16	0	8	0	-	-	3	19	児玉 真也 (2)	-	-	-	-	-	-	-
* 18	永田 裕幸 (2)	6	0	3	0	-	-	4									
19	三元 大輔 (3.5)	-	-	-	-	-	-	-									
* 20	宮澤 厚史 (2)	9	0	4	1	-	-	-									
21	佐藤 渉 (4.5)	-	-	-	-	-	-	-									
HC	水本 栄喜								HC	杉浦 寿信							
AC	信太 奈美								AC	小川 智樹							
マネージャー	永盛 雅子								マネージャー	寺島 悦子							
マネージャー	三木 ゆかり								マネージャー	小崎 祐美子							
マネージャー	川浪 健志								マネージャー	前田 麻美							
トレーナー	宮澤 穂								トレーナー	斉藤 伸明							
合 計		58	0	28	2	0	0	14	合 計		45	0	20	5	0	0	12
主審： 増竹 昇 副審： 平田 貴浩 副審： 福井 公平																	



〔戦評〕

第1Q
ワールドボールからスタート。
ワールド15番の連続シュートからゲームが始まる。
DFの堅いワールドは15番のリバウンドから、10番のファーストブレイクで、流れを掴む。OFリバウンドもとり流れはワールド。
ライオンズは、13番のドライブでファウルからフリースローを獲得し、1ゴールを入れ、17番も続いてシュートを決め応戦する。
しかし、15番と12番が落ち着いたバスワークでゲームコントロールをし、6番12番が確実に得点を入れる。
ライオンズも17番、20番が点を決めるが、流れはワールドで16対8

第2Q
ライオンズ20番のシュートでゲームが始まり、速いゲーム展開で13番、17番がシュートを決め一気に流れを掴み15対16でワールドがタイムアウトを取り、流れを切る。
お互いチャンス掴めないまま得点ととまるが、ライオンズ17番がミドルシュートを決め、13番も続いてシュートを決め、流れがライオンズに傾くが、ワールド15番、6番がシュートを決めて21対20でシーズンゲームになるが、残り数秒で、ライオンズ18番がカットインを決め、23対20でライオンズリードで折り返す。

第3Q
ワールドボールからスタートし15番が落ち着いてミドルシュートを決めるが、ライオンズ11番もミドルシュートで返す。
続いて、ライオンズ18番がファーストブレイク、OFリバウンドをとり、流れは、ライオンズ。
ワールドも5番、15番が果敢に攻めるが、リングに嫌われ得点が伸びない中、ライオンズは、10番がシュートを決める。
しかし、ワールドは、15番のインサイドシュートで応戦、カウントワンスローも決め35対30とする。

第4Q
ライオンズ13番、17番、11番のシュートが決まり、4連続ゴールで一気に突き放し、43対30とする。
ワールド9番がカットインとテクニカルファウルで得たフリースローを2本決め、流れを掴みに行くが、ライオンズ17番が連続してシュートを決め突き放す。
ワールドは、7番、10番を投入し、7番が連続ゴールを決めるが、ライオンズ10番、18番、20番がワールドのプレスから抜け出し得点を重ね、58対45でライオンズが勝利し、準決勝へ駒を進めた。

(担当：三村／増淵／大森)